秋田未来株式会社

若い人たちに「ものづくり」の楽しさを知って欲しい

秋田未来㈱では、社員7人がものづくりに関する業務を担当ごとに行っています。仕事は主に機械設計で、製品（自動車、携帯電話、パソコン等）を作るための製造ラインの設計を行います。二次元ＣＡＤ、三次元ＣＡＤといった設計ソフトを使い設計図面を描いています。時には自分で設計した装置を組立て、実際に動きを確認することもあります。

職場は社員の半数が女性で、女性社員の活躍が会社を盛り上げています。有給休暇も取得しやすく、家の都合等で急用ができても周りの協力もあり安心して休むことができるほか、社員の資格取得にも会社の支援があり、仕事に必要な資格取得の費用を全額会社が負担してくれるので、自分のスキルアップも積極的に行うことができます。

また、社長は「にかほ☆あげそば」の普及にも力を入れていて、昼食の際にあげそばを振舞ってくれたり、イベントがあるとあげそばブースを出店して販売も行ったりしています。

会社で大事にしていることは、まず第一にものづくりが好きであるということで、二つ目は「探求心」と「向上心」です。創立当初から大学と共同でリハビリ機器の開発にも取り組んでいて、商品化まであと一息のところまできています。完成後は再生医療や体に障がいがある方の役に立てればと考えています。

設計は地味なイメージがありますが、新しいものを作る上で不可欠な工程です。ぜひ私たちと一緒にものづくりを通じて、秋田の未来を進んで行きましょう。

企業情報

2012年に創立。一般産業機械等の設計ノウハウを活かして医療・リハビリ機器の開発や医療研究を目的とした試験装置等を手掛けています。

社内にはメディカル部門とメカニカル部門があり、専門研究機関と連携した製品開発の取り組みを行っています。培われた機械設計の中で多種多様な技術を活用し、関節固定具や独立歩行が困難になった方の歩行訓練用装置、機能的電気刺激（FES）を用いて走行させる車椅子自転車などの開発も進めています。地域社会との連携も深め、よりよい生活のニーズに応える環境に優しい設計を推進していきます。

- ▷所 在 地　にかほ市院内字カナヤ16－2
- ▷事業内容　機械設計
- ▷従業員数　7人（うち男3人・女4人）
- ▷電　　話　0184－74－3090
- ▷ＦＡＸ　0184－74－3091
- ▷Ｅメール　a-mirai@a-mri.jp
- ▷ホームページ　https://a-mri.jp

「にかほbiz」に掲載する事業所を募集しています！
若者や女性の採用に積極的な事業所やイチ押しの魅力などを持っている事業所を紹介します。申し込みは商工政策課（☎43－7600）まで！

にかほーむ
にかほ市移住・Uターン・お仕事支援ポータルサイト

想像と現実のギャップ

街灯要望を参考に

市民の皆さんから多数寄せられる要望の一つに、「街灯が暗い」、「街灯が足りない」というものがあります。私自身がこの声を直接お伺いすることもありますし、毎年の各町内会から上げられる要望の中で見ることもあります。

これら要望に対して市はすぐに現場確認をし、電球が切れていたりすれば直ちに交換しています。ただ、職員が夜間に現場を確認しても、その多くが既定の明るさであったり、街灯の数も設置基準を満たしていたりする場合がほとんどです。

ちょっと考えてみると…

とは言え、街灯の数が足りない場合もあるかもしれません。ですが、それだけではない食い違いの原因があるはずです。何であるか、正直今もはっきりとはわかりません。ですが、最近一つの仮説に行き着きました。そのヒントになったのは若者のスマートフォンでした。

ご年配の方々にお聞きします。若い人が操作しているスマートフォンの画面を見たことがありますでしょうか。お子さんやお孫さんのスマートフォンの画面を見てみてください。きっと驚くと思います。暗いのです。

「あなたたち、よくまあそんな暗い画面で見えるね」と私が声をかけても若い人たちはキョトンとしたままです。彼らにすれば当たり前すぎて私の言っていることが理解できないのです。そのときわかったのです。年齢によって見える光の量に違いがあるのだと。実際、調べてみると、若者と高齢者の光吸収率の差は4倍もあることがわかりました。

街灯の話に戻ります。「街灯が暗い」などの声を寄せる方の多くが比較的年齢の高い人たちです。他方で現場を確認する職員は若い人です。同じ現場であっても高齢の人たちと若い人たちとでは見え方が違うのです。土台として、意見が合うわけがないのです。

設置基準

街灯設置には当然のことながら基準があります。たとえば、住宅街における防犯灯と呼ばれるものは、40W（LEDは10・20W）のものを概ね50m間隔で1基設置することとなっています。

市内には4，584基の防犯灯があります。電気代を含めた維持費に年間約4，600万円かかります。最近の世界情勢から今後さらなる上昇が見込まれています。とは言え、安全で安心な市民生活を確保するうえで、この部分を安易にカットしてはなりません。ではどうすべきなのでしょうか。

市としては、これまでもいろいろと試行錯誤をしてきました。ポイントは原因の捉え方や視点を変えて考えてみることだと思います。そのための一つのヒントが今回の話です。

「理想と現実のギャップ」

このコラムを書いているうちに、4年前、私が市長に就任してすぐに職員に向けて行った訓示を思い出しました。それはEテレの番組ピタゴラスイッチで取り上げられたテーマ「想像と四角い穴」を題材にした内容でした。その概要を紹介したいと思います。

四角い穴が開いたテーブルとサイコロがあります。穴はサイコロよりちょっと大きいくらいです。このサイコロを穴の方に滑らせて行きます。さて問題です。滑らせたサイコロは穴の中にストンと落ちるでしょうか。

答えは『落ちない』です。

穴に入る直前にサイコロは傾き穴に引っかかってしまうのです。つまり、想像に反してサイコロは落ちないというのが現実なのです。人は想像したことを結果に簡単に結び付けてしまいがちです。それはプロセスを見ないで判断した方が楽だからです。ですが、実際は結論に至るまでのプロセスの中に真実が隠れていたりします。多くの新たなアイデアや本当の答えは汗をかきながらの試行錯誤の中から生まれてくるのです。

にかほ市長
市川雄次

市政運営から日常の出来事まであらゆるテーマをコラムにしています。過去のコラムは市HPからご覧になれます。